

教育課程実施状況調査（特別支援教育関係）結果報告（2）

～日本人学校における校内の支援体制の現状～

国立特別支援教育総合研究所では、2023年5月に文部科学省国際教育課と共同で「教育課程等実施状況調査（特別支援教育関係）」を実施しました。以下にその結果をご報告します。

図1 校内の支援体制

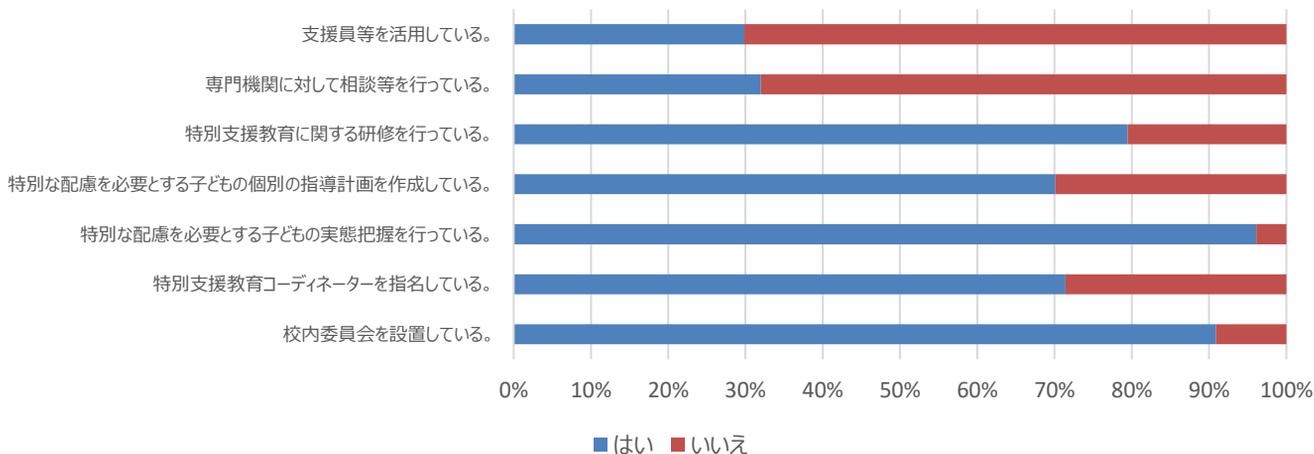
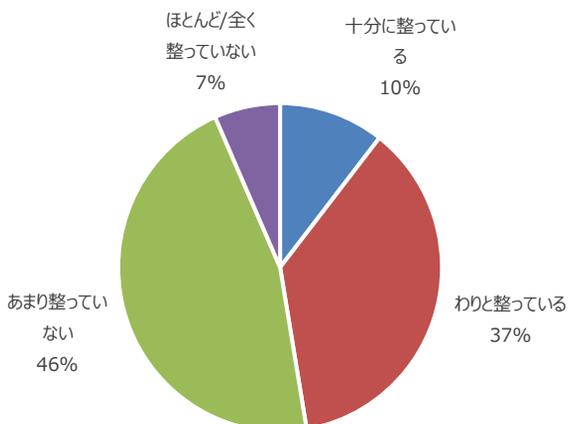


図2 指導体制や校内支援体制は十分に整っていますか



①校内の支援体制について

校内の支援体制の状況の設問について、「校内委員会の設置」や「実態把握の実施」では9割以上、「研修の実施」では8割、「コーディネーターの指名」、「個別の指導計画の作成」では7割の日本人学校で対応されている状況が明らかになりました。

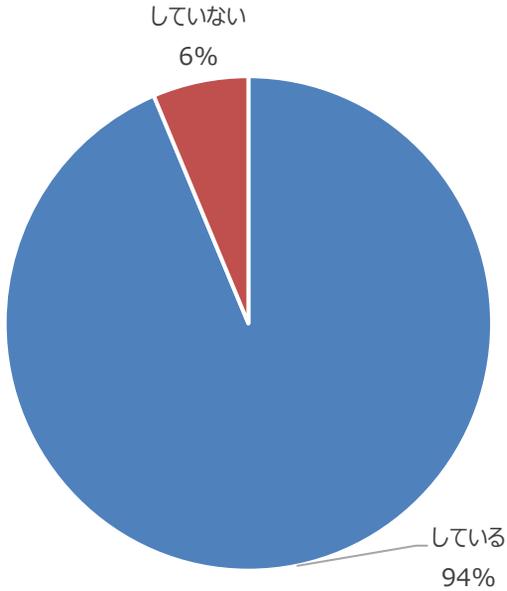
一方で、「専門機関への相談」や「支援員等の活用」は、3割ほどに留まっている状況が明らかになりました。（無回答を除く）（図1）

②指導体制や校内支援体制の自己評価について

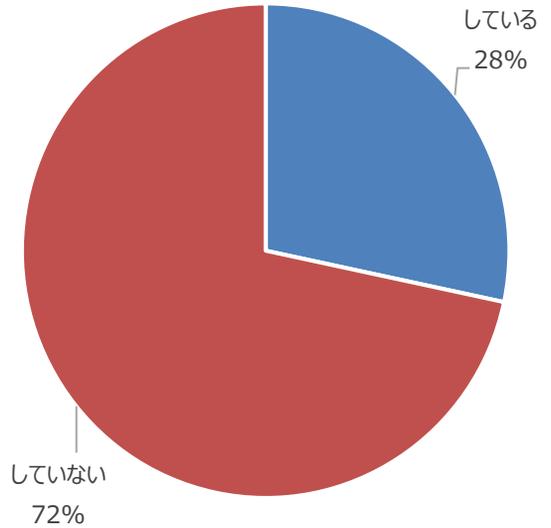
特別な支援を必要とする児童生徒を指導・支援するための指導体制や校内支援体制の整備状況について自己評価してもらったところ、「十分に整っている」と「わりと整っている」で47%、「あまり整っていない」「ほとんど/全く整っていない」で53%となりました。（無回答17校を除く）

指導体制や校内支援体制が整っていないと感じている日本人学校が半数以上になることが明確になりました。（図2）

通常の学級の授業時間内に
個別の配慮や支援をしていますか



通常の学級の授業時間外に
個別指導をしていますか



「通常の学級の授業時間内に個別の配慮や支援をしていますか」の問いに「している」と答えた学校は、59校で94%でした。（無回答30校は除く）この結果より、多くの日本人学校で通常の学級の授業時間内に個別の配慮や支援をしている状況が明らかになりました。

一方で、「通常の学級の授業時間外に個別指導をしていますか」の問いに「している」と答えた学校は、17校で28%でした（無回答33校は除く）。この結果より、通常の学級の授業時間外に個別指導を行っている学校は、3割弱にとどまっている状況が明らかになりました。

まとめ

日本人学校における校内の支援体制の現状について、整備されている状況がある一方で、日本国内の状況とは異なり、外部の専門機関に相談したり、支援員等の活用が難しい状況があることが分かりました。また、指導体制・支援体制の整備状況の自己評価では、半数以上が「整っていない」との回答がありました。指導体制や校内支援体制のより一層の整備が課題であると考えられます。ほとんどの日本人学校で通常の学級の授業時間内に個別の配慮や支援をしている状況が明らかになりましたが、通常の学級の授業時間外に個別指導を行っている学校は、3割弱にとどまっている状況が明らかになりました。

次回の特総研だよりでは、日本人学校における特別支援教育の課題と工夫点についてお知らせします。



お問合せとご相談はこちらまで

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

情報・支援部 学校教育支援・連携 担当 小澤 至賢

連絡先：wsodan2@nise.go.jp